

「新しい昆虫食の世界」

巡回展

in 農学部分館

期間：10月19日(月)～11月6日(金)

場所：香川大学図書館農学部分館閲覧室

主催：農学部公認「料理科学イベント企画サークル Lieto Ottimo」

協力：大阪府環境農林水産総合研究所

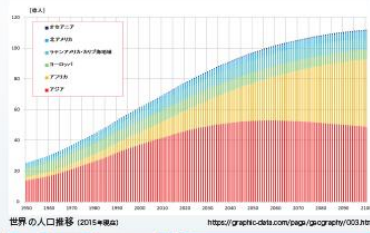
香川大学図書館・香川大学博物館・農学部松本・川崎研究室

農学部分館の利用者数・貸出数が減少している現象に対応すべく、博物館展示、中央館・県立図書館との協働企画展示に引き続き、農学部分館で新たに学生ブックハンティングと合わせて、間接的昆虫食の企画展を行う。「間接的に昆虫を喫食する」とはどういうことか？Lieto Ottimoは香川大学博物館特別展「新しい昆虫食の世界」を開催し、「新しい昆虫食」という言葉を初めて用いた。活動は広く認知され、農林水産省ではフードテック研究会の議題として取り上げられ「培養肉」、「代替肉」、「昆虫飼料化」は成長産業に発展すると報告された。これを機に新しい学問領域へと発展する可能性を鑑み、蔵書強化と共に図書館の利用率向上に繋げたい。10月からの授業の資料として学生選書図書を利用いただき、貸出数の向上にも努めたい。また、学生主導の企画が今後の活動にもつながっていくように図書館としてサポートを行うことを目的に行う。

VOICE

間接的昆虫食が世界を飢餓から救う

料理科学イベント企画サークル Lieto Ottimo



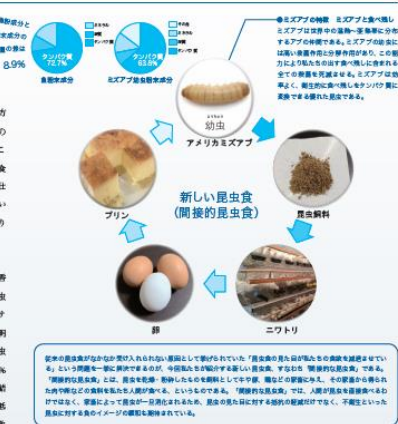
私たちは農学生ならではの科学的な視点を通して、地域の方々に食に関する興味や知識を持っていただけるようなイベントや企画を開催しています。

2019年度は、農学部専攻2019年香川大学博物館特別展などを通して「間接的昆虫食」を広める活動を行いました。「間接的昆虫食」とは、昆虫を家畜の飼料として食べ、その家畜から得られた食料を人間が食べるというものです。世界では人口増加に伴う深刻な食糧不足が懸念されています。そこで、現在注目されているのが「昆虫食」です。私達は新しい栄養源としての「昆虫食」の実現に向け、その第一歩として「間接的昆虫食」の調査を行っています。そして、地域の方々に少しでも「昆虫食」について関心をもっていただき、身近に感じていただくことを目指しています。

農学部専攻2019では、来場者の方々に昆虫飼料ミルゲームを用いた冊子を作ったアプリンと、用いている冊子を使って作ったアプリンの食べ比べをしていただき、昆虫飼料に対する意識調査を行いました。その結果、多くの方が昆虫飼料を用いて作ったアプリンの方が

おいしそうと感じており、さらに70%以上の方が昆虫飼料への抵抗が以前より減ったとの回答を得ることができました。また、べっこう飴を来場者の方々の前で実際に作り、試食していただきました。べっこう飴が固まる仕組みや、砂糖の働き、砂糖の色の変化についても説明し、科学を身近に感じてもらう取り組みも行いました。

昆虫飼料の知名度をさらに上げるために、香川大学博物館で実施した特別展「新しい昆虫食の世界」では、ポスターやパネル、飼料サンプルの展示に加え、動画の作成や口頭説明を行いました。さらに来場者に向けて昆虫食に対するアンケートも行い、ここでは50%の方が間接的昆虫食に興味をもてたという結果が得られました。また、直接昆虫食に抵抗があるという回答も多かったのですが、半数以上でしたが、昆虫飼料を用いて作った食料に対しては80%の方から抵抗がないという回答を得ることができました。博物館の来場者の中には「昆虫食に対してのイメージが変わった」との感想を寄せてくださった方もおり、期待がもたれていたのではないかと感じます。



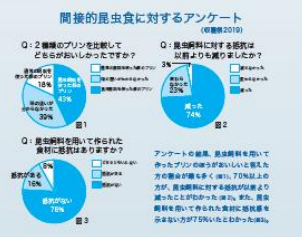
このような私たちの活動は、ラジオ・新聞などに取り上げられ、「間接的昆虫食」が世界を救うから食う存在になると注目されました。また香川県からも高く評価され、「令和2年度青少年育成香川県民会館の青少年育作者(団体)」として本サークルが表彰されました。家畜に代わる新たなタンパク質として



↑学生ブックハンティング(WEB選書)計画の始動打ち合わせ



↑WEB選書の様子



アンケートの結果、昆虫飼料を用いて作ったアプリンがおいしいと感じる方が多く、70%以上の方が昆虫飼料に対する抵抗が以前より減ったことがわかりました。また、昆虫飼料を用いて作ったアプリンに興味をもちたい方が70%以上と増加しました。